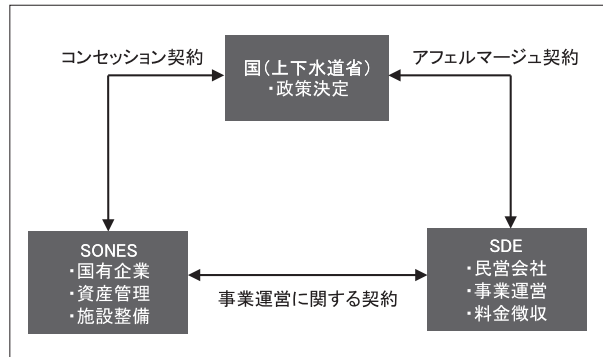


● 国と事業者の関係



セネガル都市部の水道データを表に整理する。

□2 SDE設立までの経緯
セネガルがフランスから独立したのは1960年。独立後、1971年まで、都市部の水道事業はフランスの情報通信系企業CGC Franceの子会社が行なっていた。具体的な経緯は不明だが、1971年には国営企業であるSONEESが誕生し、CGCから水道事業を引き継ぐと、1996年まで活動を続けた。

急激な人口増で逼迫する水需要 積極的な海外資本導入でインフラ整備



● セネガル都市部の水道データ

事業者	SDE(職員約1200人)
大株主	ERANOVE(株式保有率58%)
事業区域	首都を含むセネガルの都市部
給水人口	約700万人
顧客数	約70万件
水道普及率	98%(共用栓による給水含む)
水源	地表水、湖水
配水量	49万m ³ /日

今年のカップ・ロシア大会で、日本と同じ組で一次リーグを戦ったセネガルは、西アフリカに位置する共和国である。首都ダカールの面積は83平方キロ、人口250万人で、国内の都市では唯一人口100万人を超える。フランスの植民地であった歴史から、公用語にフランス語が使われている。国

●公益財団法人
水道技術研究センター
専務理事
安藤 茂
●同センター
調査事業部主任研究員
高橋 邦尚

1996年、政府は増加する水需要や事業財政悪化への対応のため、SONEESがそれまで担ってきた役割を、異なる団体に三分割することを決定。分割後の1社がSDEである。2社目がセネガル国営水道会社(SONESS: Société Nationale des Eaux du Senegal)である。SONEESは水道資産(アセット)の管理者であり、SDEの事業監督を務める。3社目は下水道事業を担うONASであるが、本稿では詳細は割愛する。

SDEと政府との契約形態はアフェルマージュ契約である。コンセッション契約と異なり、通常、アフェルマージュではインフラ整備のための投資義務は受託者側には生じない。ダカールの場合も、SONEESが新規の設備投資を行い、SDEは取水から蛇口までの水道サービス全体を担うという役割分担になっている。国と事業者の関係を図に示す。

□3 国際機関からの融資
逼迫する水需要への対応のため、セネガル政府は国

内通貨は、アフリカの旧フランス植民地で広く使われている共同通貨「セーファーフラン」である。比較的治安が安定しているせいもあり、2002年に約1000万人だった国内人口は、2018年時点で1630万人まで膨らんでいる。そのため首都圏の人口増加も著しい。

□1 都市部の水道事業者
首都ダカールを含む都市部の水道事業は、政府との委託契約に基づき、民間企業であるセネガル水道会社(SDE: Senegalaise Des Eaux S.A.)が担当している。2016年における給水人口は約700万人、1日あたりの平均配水量は49万立方メートル。水源は地下水と湖水で、148の井戸と10の浄水場を運用している。浄水処理では、地下水に対しては塩素処理だけの簡素な処理を、湖水に対しては、前塩素処理、凝集沈殿、砂ろ過、粒状活性炭ろ過、塩素消毒を行なっている。

SDEの大株主は、パリに本拠を置くフランスの電気・水道会社ERANOVEである。

同社は1996年に実施された国内水道事業の再編に伴い、セネガルの水道事業に参入した。ERANOVEの活動地域は主に西・中央アフリカで、セネガルのほか、コートジボワール、コンゴ、マリでも水道事業を展開している。なお、これらの国々ではすべてフランス語が公用語である。

SDEが水道事業に参入した96年当時、対象地域における水道普及率は80%であったが、2016年には98%まで上昇した。同時期、人口増加にともない顧客数も大幅に増えており、96年当時の24万件に対し、2016年は70万件となっている。急激な人口増加による需要逼迫の問題を抱えながらも、SDEの水道事業は高い効率性を国内外で広く認められており、2018年5月に南アフリカのケープタウンで開かれた国際会議「アフリカン・ユティリティ・ウィーク」では、セネガルにおける国連のミレニアム開発目標達成への貢献を認められ、年間最優秀水道事業者に選ばれている。

外の出資者とも協力しながらインフラ整備を進めている。直近では、ダカール向け施設能力の増加を目的として、計494億円の融資を複数の国際機関から得ることに成功。出資者の内訳は、イスラム開発銀行(35%)、欧州投資銀行(26%)、フランス開発銀行(21%)、アフリカ開発銀行(16%)、世界銀行(1.6%)である。2020年を目前に、新たな浄水場(20万立方メートル/日)の建設を目指している。また、国内初となる海水淡水化施設の建設計画も進んでおり、こちらは日

本のJICAが出資者である。日量5万立方メートルの本施設の竣工予定は2021年、円借款による融資額は268億円にのぼる。本プロジェクトでは、海水淡水化施設の建設だけでなく、ダカールの配水管460キロ

分の更新も予定されており、JICAはプレスリリースの中で、出資の目的を、「水源の多様化や水供給能力の強化を図ることにより、ダカール首都圏の人々の生活環境の改善に資すること」と述べている。



ダカール中心部にあるケルマル・マルシェ(市場) 南里章二さん撮影

1. SDE. <http://www.sde.sn/Pages/home.aspx>
 2. SONES. <http://www.sones.sn/index.php>
 3. ERANOVE. "SDE." <http://www.eranove.com/references/sde/>
 4. Monde Economique. "La Gestion de L'hydraulique Urbaine à Dakar Distinguée par la Banque Mondiale." <https://www.monde-economique.ch/fr/posts/view/la-gestion-de-l-hydraulique-urbaine-a-dakar-distinguee-par-la-banque-mondiale>
 5. World Population Review. "Senegal Population 2018." <http://worldpopulationreview.com/countries/senegal-population/>
 6. JICA. ニュースリリース. https://www.jica.go.jp/press/2016/20161116_01.html